

資料2

六玉川

1. 近江おうみ 野路の玉川のぢ（萩）。滋賀県草津市。
2. 摂津せつ 三島の玉川みしま（卯の花）。大阪府高槻市。
3. 紀伊きい 高野の玉川こうや（旅人）和歌山県高野山奥院。
4. 武蔵むさし 調布の玉川ちようふ（晒布）。東京都調布市。
5. 陸奥むつ 野田の玉川のの（千鳥）。宮城県塩竈市野田。
6. 山城やましろ 井手の玉川いで（山吹と蛙）京都府綴喜郡井手町。

玉藻刈る井堤いでのしがらみ薄みかも恋の淀める我が心かも 万葉集（巻三）

わすれても汲みやしつらむ旅人のたかののおくの玉川の水 空海

音に聞く井手の山吹見つれども蛙かの声は変らざりけり 紀貫之

色の香もなつかしきかな蛙か鳴く井手のわたりの山吹の花 小野小町（御拾遺集）

かはづ鳴く井手の山吹散りにけり花の盛りにあはましものを よみ人しらず（古今和歌集）

山城の井手の玉水手たまみずにむすびたのみしかひもなき世なりけり よみ人しらず（新古今和歌集）

山吹の花のさかりに井手に来てこの里人さとびとになりぬべきかな 患慶えき法師

春深み井手の川波たちかへり見てこそゆかめ山吹の花 源順（拾遺和歌集）

春の池や井手の河瀬に通ふらん岸の山吹底も匂へり 紫式部（源氏物語胡蝶卷）

思はずに井手の中道へだつとも云はでぞ恋ふる山吹の花 紫式部

松風の音だに秋は淋しきに衣うつなり玉川のさと 相模

タされば夕風こしてみちのくの野田のたま川ちどり鳴くなり 能因法師

あすもこむ野路の玉川菘こへて色なる浪に月やどりけり 藤原俊頼

玉藻刈る井手の川風吹きにけり水泡みづなにかぶ山吹の花 源實朝

玉藻刈る井手のしがらみ春かけて咲くや川瀬のやまぶきの花 源實朝

駒とめてなほ水かはん山吹の花の露そう井手の玉川 藤原俊成（新古今和歌集）

むかしたれ植ゑはじめてか山吹の名を流しけむるでの玉水 藤原俊成

九重に八重山吹をうつしては井手のかはづの心をぞくむ 藤原定経（千載集）

山吹の花色いろも衣ころもさらすてふ垣根や井手の渡りなるらむ 後鳥羽院

調布たづふやさらす垣根の朝露をつらぬきとめぬ玉川の里 藤原定家

いつしかも都の人にことづけむ井手の山吹今ぞ盛りと 藤原定家（拾遺愚草）

山吹の花咲く里になりぬればここにもゐでと思ほゆるかな 西行

拾遺に山吹を寄す

山吹の花咲く井出の里こそはやしうゐたりと思はざらなん 西行

山吹へ井手の駕籠借る時雨哉

芭蕉